

# 社員の安否確認と被災者救援を最優先する

UCC上島珈琲株式会社本社

## 1 地震発生時の対応

地震発生時、本社には4階コンピューター室にオペレーターが2名宿泊していた。総務部長は、自宅から委託警備会社およびポートアイランドに居住する社員に本社施設の破損状況を確認するように電話で指示した。確認の結果、建物等の施設には異常が無かったが、内部の机等が散乱し、壁面は損傷していた。

部長はその旨を社長に報告したところ、即座に神戸駅前の旧本社ビルにUCC復興対策本部の設置を決定し、社員の安否と得意先の被災状況の調査を開始した。復興対策本部では、当日から18日にかけて約500名の社員の安否を確認し、未確認の社員に対しては、19日からバイク捜索隊を編成し捜索した結果、生き埋め者を発見し震災後30時間ぶりに救出された者もいた。

また、復興対策本部は、神戸市災害対策本部に救援物資の必要量を打診し、水・コーヒー・粉ミルク・お茶及び食料等を神戸市立中央市民病院をはじめ市役所・区役所ならびに近隣市役所等へ供給するとともに、街頭においてコーヒーの無料配付を行うなど、救援活動は3月末まで継続実施した。これらの物資は加古川支店より配送した。

地震の翌日の18日から施工業者に、本社ビルおよび近隣事業所・寮の安全確認を依頼し調査の結果、本社ビルは支障ないと判断で、翌19日からは一部の社員が出社し、事務所内の散乱したロッカーや書類等の整理を開始した。

## 2 業務再開に向けて

会社の指示により、1月23日に神戸駅前の旧本社ビルに社員全員が出社した。その後、2月6日より業務をポートアイランドの本社において正式に再開した。しかし、水道が止まったままのため、生活用水の確保については加古川支店から運搬し最終的には2月25日の通水まで継続した。

コンピューターには支障は無かったがその運用には水が必要であり、地震後館内には約8トンの水しか残っていなかったため、水の節約のためオペレーターのみ駐在させて、水の使用量を極力制限し、長期対策とした。

地震の被災地域における住民対策として前記の救援物資の供給を行う一方、被災地の自動販売機の復旧を優先事項と判断し、全国各地の事業所から社員の応援を受け復旧に努め、飲料水の確保に当たった。

また、業務再開後の社員の通勤手段も問題となった。神戸駅前の旧本社ビルへは復旧された交通機関から徒歩通勤であったが、社員の疲労が増してきたため、25日からは須磨・西代・新神戸の

3 駅にチャーターバスを配した。

ポートアイランドの本社再開後は、交通アクセスが十分でないため勤務体制を3交替とした。また、交通混雑を考慮して西方面は、通勤ルートメリケンパーク・ハーバーランド～北公園のシーバスを中心として北公園～本社間にチャーターバスを配し、東方面は、朝は阪神青木～本社間をチャーターバスとし、帰りは北公園～六甲アイランドのシーバス利用により六甲アイランド乗船場よりチャーターバスにて阪神青木駅へ送った。

震災1週間後には、被災した社員のためにマンションの確保を開始したが、東京方面の他社が既に先行して確保していたため、マンションの確保には非常に苦労した。

### 3 教 訓

- (1) 加入電話がかかりにくかったが専用回線は有効に機能した。また、携帯電話を購入し利用したので役立った。
- (2) バイクを購入し、電話連絡できない社員の安否確認に役立った。
- (3) 本社ビルの機能がマヒした際のバックアップ体制が必要である。